

小島睦男氏所蔵文書

足柄上郡大井町篠窪

現在、小島睦男氏が所蔵されている古文書は、小島巖氏所蔵文書として『神奈川県史』等県市町史の史書に活用されてきた史料群である。足柄上郡大井町篠窪は、中世社会において鎌倉幕府吏僚二階堂氏の系譜をひく篠窪氏が居た土地であり、篠窪氏は足利尊氏から本領安堵の袖判のある御教書を得ており、後北条氏の時代には戦国武士として活躍している。当小島家には、東京大学名誉教授百瀬今朝雄氏が「中世政治社会思想 下」の中の解説で「唯一の関東における座席定文である」と述べられた（『日本思想体系』22、岩波書店、1981年）天文4年9月29日付け、「相模篠窪百姓中座敷定文」がある。また天正19年2月の「坪帳」とある検地帳はつとに有名である。所蔵文書は、この様に戦国時代の天文4年（1535）を上限とするが、その多くは江戸時代における篠窪村名主の文書であり、下限は近代の昭和期に至る。

当家は、江戸時代に旧篠窪村名主、明治期戸長役場の存在した時代には旧篠窪村外五ヶ村の戸長を務めた家柄で、名主から戸長に至るまで歴代甚左衛門を称してきた。

当家が所蔵する古文書・資料全体の調査は、県政100年を記念して開始された神奈川県史編集のための調査が初めてであり、所蔵古文書等の目録は『神奈川県史資料所在目録 大井町』第12集に収録されて刊行された。次いで、県立文化資料館が、まだ未整理であった江戸時代の文書の一部と明治期から昭和期に至る（主に明治期）文書資料とを調査整理した。このときの史料調査は、与えられた日数が1日ということでもあり、県史編集室の整理袋に何袋か纏めて入れて保管されていた書状類を中心とする史料には整理の手が及ばなかった。その後、大井町の町史編纂でも調査を実施されたようであるが（『大井町史資料目録 第1集』）、平成11年7月、予備調査のため当家を訪問した際には現蔵史料の中から大井町史調査の実態を把握することは出来なかった。

そこで、当公文書館では、以上の調査・整理状況をふまえて同年7月に実施した予備調査での保存状態の危惧と文化資料館の整理が途中であることにより、県による史料整理の再開、マイクロフィルム撮影の実施、中性紙袋への入替え等県史編集室・文化資料館調査のアフターケアを実施することとした。

以下、調査実施状況を述べておきたい。

調査年月日：平成11年10月18日～平成12年1月17日、延べ11日間、

調査人員：旧・現公文書館職員、延べ38名、

調査対象史料：1. 県史編集室調査文書678件、2. 同編集室調査刊本289冊、3. 文化資料館調査文書264件、4. 書状等未整理一括史料、5. 断簡等その他の史料、6. 予備調査で提示された大正～昭和期教育関係史料

既に整理された当家所蔵文書は、県史編集室、及び文化資料館刊行の目録に従って保存・管理されてあるので刊行目録順に整頓して、原物と袋標題との記載事項・内容を確認した上で中性紙袋に入れ替えた。さらに、補記すべき記載はこれを補った。分離した文書・補修すべき文書は、その場で糊り継ぎ、紙縫りによる修復を実施した。中性紙袋入れ替え状況は、県史編集室調査済分では状の部金融を除く全て（但し、散逸や鼠害欠損は除外）入れ替えを完了させた。文化資料

館調査済分は、横帳の部全てを入れ替えたが、冊の部、状の部、絵図は、今年度の日程では未着手に終わった。

新出史料として整理・目録作成した文書は、252件であった。新出史料は別に項目を立てて整理し目録を作成した（本冊目録参照）。252件の内容は、「断簡等その他の史料」であり、主に明治期以降の史料である。「書状等未整理一括史料」と「予備調査で提示された大正～昭和期教育関係史料」は、所在不明や都合により本調査では整理・目録作成はできなかった。

散逸・鼠害・雨水の被害による史料が幾つか見られた。この内刊行本は、第12集の「所在資料の概要」に「本目録に未収録の版本類が多数保存されている」と述べられているが、その存在の全てを確認することはできなかった。目録に収録された刊本（107件、289冊）のほんの一部を拜見することはできたが、水損が甚だしく今回は手の施しようがなかった。本冊では、『神奈川県史資料所在目録 大井町』第12集から転載した。この他、散逸・鼠害の被害に遭った史料を挙げておくと、県史編集室調査済の内からは、冊の部支配No.66、状の部戸口No.3、金融No.22、寺社No.4、10、11、12、13、16、17、18、20、文化資料館調査済の内、冊No.23、56、状の部No.7である。

以上、刊本、散逸・虫・鼠害欠損史料（15件）を除き確認等調査を実施した文書は、1,167件である。この内、中性紙袋への入れ換え済は677件、新出史料として整理・目録作成した文書は、252件であった。マイクロ撮影は、文書79点（431コマ）実施した。その内容は、天正19年坪帳、年貢割付・支配・村政・村況項目の文書である。マイクロ撮影済分は、A4版に紙焼き付けし製本してあるので何時でも利用が可能である。

追記、1,167件の内には、仏壇等に保管する史料8点を含む。

脇坂 眞氏所蔵文書

三浦市三崎町城ヶ島

脇坂 眞氏が所蔵する文書は、一部『目でみる三浦史』（昭和49年3月、三浦市発行）に常光寺所蔵として紹介されているが、それらの史料はむしろ脇坂家との関係で伝来したものである。勿論、常光寺資料として経典をはじめ仏書等が所蔵されている。当家の所在資料調査は、平成10年度から開始したが、調査日程の都合により所蔵者脇坂眞氏の御高配を得て、年度を跨ぎながらいまだ継続実施中である。

本冊に収録した資料は、『目でみる三浦史』に掲載された史料と江戸時代の古文書、それに常光寺九世了空師の息男脇坂健次郎氏が多年をついやし史料収集し纏めた「城ヶ島沿革誌」「御崎沿革誌」「三崎城ヶ島古記録集綴」等20件である。脇坂健次郎氏の著作には、今日では確認できない江戸時代の古文書が多く引用されている。調査継続中。

来福寺（和田祐智氏）所蔵文書

南下浦町上宮田

当寺院は、鎌倉幕府創業期に活躍した和田義盛の菩提寺である。

明治5年の「真宗東派寺明細書上扣 全」によれば、宗祖親鸞（開基）の直弟子浄信が、建長年中に創建したという。また、昭和17年3月の「国有地売払申請書」に添付された当寺の「由緒及沿革」や祐智氏の整理された「鹿穴山来福寺略縁起」によれば、天台宗の門に入った三浦一族佐原政連の子、六郎政村が、建永年間（1206～7）鎌倉名越の地に一字を建立し満昌院来福寺と称したのに始まるという。政村は、法名を祐憲と号し、以後歴代住持は「祐」を通り字とした。鎌倉の地から和田義盛の旧館跡があった三浦郡和田に移ったのは建保5年（1217）のことと伝えられている。現在ある本堂は、元禄10年建立以来、文政12年、昭和4年、昭和62年に大改修が行われたものの建物は当時の建築物が使用されてあるという。

塔頭に弘安年中創立の圓龍寺、応永年中創立の専光寺、永仁年中創立の法泉寺、兼務寺として延命寺、末寺に文永年中創立の光信寺と建保元年和田義盛の孫朝盛が創建した大井山五劫寺がある。所蔵される什物等の古文書・聖教・仏書等の数は、1,000点を越える。

当寺における資料調査は、神奈川県史編集のため昭和42年に実施（『神奈川県史資料所在目録三浦市』第3集、同43年7月刊）されているが、全資料の調査は今回が初めてである。御住職の和田さんの御指導を頂きながら実施した。

調査点数は、1,407点。但し、県史編集室が調査した寛永7年からの過去帳26冊、墓籍、血脈は、真宗本山との関係があり公文書館の調査には含まれていない。

目録作成数388件440点、整理袋に入れて資料標題を記入したが目録作成に至らなかった聖教・仏書920冊、マイクロ撮影は425件（3,030コマ）実施した。

蓮如法主の六字名号、九字名号を初めとし、天正10年9月、下間頼廉書状写から平成2年に至る史料がある。

整理・目録作成は、収納されてある保存袋、場所等に従って行った。資料1、資料2は無銘の木箱である。

1. 古諸書類箱入文書（元禄14年～大正14年）
2. 参考古文書箱入文書（弘化1年～昭和59年）
3. 資料1（万延2年～昭和27年）
4. 資料2（天正10年～昭和19年）
5. 金庫入文書（弘化3年～平成2年）
6. 本堂額縁入り（文化12年～明治9年）
7. 聖教・仏書類（寛永9年～）

聖教・仏書類は、故浜田勘太氏が約600余冊目録作成していたが、上下巻セットの書籍が離れていたり、未処理の中から関係書籍が出てきたこと、虫損が進み丁間が開かなく成っている書籍（丁間を開ける作業は、御住職の和田さんが実施）が見られるために一冊づつ中性紙の整理袋に資料名（標題）を書き、袋に入れて保存措置を行った。

調査期間は、平成11年2月8日～同年3月10日、延べ11日間、調査延べ人員は、39人。マイクロ撮影機材の移動は、三浦市教育委員会文化財係長（当時）飯島重一氏が行い、来福寺から城ヶ島の脇坂家（常光寺）への移動は当館野村晴男氏が行った。

本瑞寺（洞外文隆氏）所蔵文書

三崎

当寺院は、海光山本瑞寺と称し曹洞宗の寺である。開基を戦国武将三浦道寸の子で武将でもあった三浦義意とする。本瑞寺伽傳が永享11年5月に記した「海光山本瑞寺由来」によれば、本瑞寺は、上杉氏憲（禅秀）が自殺し関東の戦乱が静まった応永24年に建立されたとある。また、永享11年2月、関東公方足利持氏が自殺させられた永享の乱の時、当寺は狼藉・放火により灰塵となったとある（「海光山本瑞寺兵火易地録」）。

所蔵史料は、応永年中から元亀元年に至る表紙共25丁に及ぶ「海光山本瑞寺兵火易地録」、天正19年11月、徳川家康が天獄院に玉縄郷之内参拾石を寄進した判物写等戦国期から明治期に至る。江戸時代の三崎町絵図や当寺が享保4年小浜民部屋敷跡である現在地に移転した絵図が伝えられている。調査目録作成数は、全103件。調査年月日：平成8年12月2日、延べ1日間、調査人員当館職員延べ5名、マイクロ撮影は、全資料103件（822コマ）実施した。

澤村弥寿子氏所蔵文書

三崎

当家は、明治5年に三崎町戸長を務めた澤村卯兵衛家である。平成10年1月下旬には私宅の一部を開放し、「三崎まぐろと歴史の博物館」として漁具関係史料・画幅等を展示された（三浦市教育委員会飯島氏御教示）。今回の調査で目録を作成した史料は、玄関左横に在った土蔵を壊した折、当家に残されたものである。史料総数112点、マイクロ撮影数65点2,322コマ。

鈴木裕一氏所蔵文書（旧野島浦名主）

東京都世田谷区下馬

当家文書は、武蔵国久良岐郡野島浦名主を務めた鈴木吉兵衛家の文書である。所蔵者である裕一氏は、吉兵衛家の後裔にあたる。

旧野島浦は、現在の横浜市金沢区野島にあたり、金沢八景の一つ「野島夕照」で一带の景観の美しさが世に知られていた。江戸時代、文政11年（1828）成立の『新編武蔵風土記稿』では洲崎村の小名として記載されているが、その説明には「此所を濱方と云、名主をも別に定めて濱名主と稱し、自ら別村の如く」とある。当家文書の中から野島の標記の仕方を年代順に見ていくと伝存文書中二番目に古い延宝5年浦方獵場出入の訴状では「野島浦名主兵庫」、享保5年、明治8年の証文に「野島村名主」、安永2年宗旨人別五人組帳では「野島浦名主」、文政2年関所通行手形に「野島村名主」、天保6年2月付証文の差出人在所名には「倉橋惣左衛門知行所武州久良岐郡洲崎村之内野島浦」、同9年通行手形「野島村名主」、これ以降の年代においても「野島浦」或いは「野島村」とある。『風土記稿』にある名主の存在は確認されるが、「野島浦」であったか

「野島村」なのか、「浦」か「村」かを使い分けていたか否かという点は今後の課題としておきたい。小稿で「野島浦」を使用したのは「横浜市史第一巻」によった。

野島の名主は、文化年代までは何人かの交替が見られるが、文化15年以降からは略吉兵衛家が務めている。

伝存史料は、寛文7年の浦方掟から昭和20年動員学徒名簿に至るが、その多くは近世中後期の漁業を中心とした名主関係文書である。漁業以外に、整理目録その他に分類した「麴町十三丁目ヨリ半蔵門迄御用水戸桶并組合戸桶筋」とある絵図は、「玉川上水大通石垣戸桶」の寸法が「四尺五寸四方」とあり、江戸城の「御本丸掛」「吹上掛」の水路を図式化し、水路が途中「井伊掃部頭」等各大名屋敷に引き込まれており、大名屋敷で使用する水が、「玉川上水」から取り入れていたことがわかる史料もある。伝存史料は、多様であるのでこれを古文書、書籍（漢籍・和書等）、軸物（神仏画像）、幡（船旗）等の種別に分けた。全2,028点。

上記の文書は、現在当公文書館で保管しているが、昭和57年7月に小松郁夫氏（現、公文書館職員）を中心とする有志が、当時（財）日本水路協会の審議役であった鈴木裕一氏が所蔵する古文書・書籍等を調査・整理したのが最初である。この時、整理した史料は全1,639点余であり、神奈川県史編集室の分類にあわせて立項されており、整理目録も出来上がっていた。

平成11年10月、鈴木裕一氏から当公文書館にこれら史料の寄贈申し出があり、同月7日、樋口課長、小松氏、田島の3人で横須賀市湘南鷹取にお住まいであった鈴木家を訪ね、引き渡しを受けた。その時、新たに木箱に入った未整理の文書2箱を手渡された。手続きの関係もあり、その日から早速追加の新しい分の整理と整理済史料の中性紙袋への入替えを実施した。整理は、公文書館で古文書の整理に当たっている岩脇・音川・風巻の3氏を中心として目録も作成した。完成した目録が、今回本冊に収録したのがそれである。新たに追加された史料は、全て編年とし「編年」の項目で処理した。また、従来整理された史料の中でも1袋に数点入れてある物は、1点1袋に入れた。その史料は関連史料であることを示す関係から、整理袋は紙縫りで結わえ、目録は同史料の中に枝番を与えて作成した。全史料マイクロ撮影し、フィルムに納めてあるので複写も簡単に出来るようになっている。

（解説は、田島光男が執筆した。）

神奈川県古文書資料所在目録

第22集

編集 神奈川県立公文書館

発行 神奈川県立公文書館

館長 岩崎純夫

〒241-0815 横浜市旭区中尾1-6-1

☎ (045) 364-4456

FAX (045) 364-4459

発行日 平成12年3月31日

印刷所 株式会社野毛印刷社

〒231-0012 横浜市中区相生町5-79

☎ (045) 252-2511

FAX (045) 252-8826

